

第15回ひょうご新聞感想文コンクール 神戸新聞社賞

「模擬原爆の存在」9年1組 橋本 のぞみ

「模擬原爆投下先摩耶山か」という見出しが気になり、新聞を読みました。私はこの記事を読むまで、模擬原爆の存在を知らませんでした。

小学校の修学旅行で広島を訪れ、語り部の方から聞いた原爆の恐ろしさが再びよみがえってきました。まさかそんなものがあつたのかと驚くと同時に、模擬爆弾が神戸に四発落とされ、十数人の死者が出たことに衝撃を受けました。「原爆は神戸ともつながっている」という西岡孔貴さんの言葉から、広島や長崎に投下された原爆が、急に自分事のように思えてきました。西岡さんは、模擬原爆「パンプキン」について研究している大学院生です。私と年齢の近い人が、どうして模擬原爆を研究されているのかと興味がわき、記事を読み進めました。

模擬原爆「パンプキン」は、長崎に投下された「ファットマン」と同型・同重量の大型爆弾で、主に原爆投下の訓練に使われました。1945年7月20日から8月14日まで、投下の候補地とされた広島や京都などの周辺の都市が目標となり、死者400人超、負傷者1300人超の被害が出たそうです。広島に原爆を投下した「エノラ・ゲイ」が、その13日前に神戸に模擬原爆を投下したこと、広島や長崎に原爆を投下した後もなお、模擬原爆が投下され続けていたことなど、信じられない事実がたくさんありました。

私は、小学生の頃からずっと平和学習をしてきました。実際に、修学旅行で広島や沖縄を訪れ、戦争について詳しく学習したので、戦争についてある程度わかったつもりでいました。しかし、西岡さんの「同世代が平和学習で戦争を学んだ際、自分には関係ないと敬遠する場面を見たことがある」という言葉にハツとし、自分もその一人だったかもしれないと気づきました。小学生の頃、実際に被爆された方の話を聞いたとき、原爆の恐ろしさに恐怖を覚えたにも関わらず、今は戦争が起きているわけじゃないし、昔のことだから関係ないと、どこか他人事として捉えていたことを思い出したのです。

今、私たちのような戦争を体験していない若者こそ、未来のためにもっと戦争について知るべきだと思います。ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区攻撃など、痛ましい戦争のニュースを目にする中、私たち一人一人が戦争への危機感をもち、平和を強く願うことこそが、世界平和への第一歩だと考えます。この記事を読んで、戦争について知らないことがまだまだたくさんあると気づきました。本当は、知らないことだらけなのかもしれません。これからは、平和についてもっと真剣に考え、次の世代の人たちに、戦争の恐ろしさや平和の大切さを伝えていきたいです。8月6日、9日は広島・長崎への原爆投下の日ですが、それと同じように、神戸に模擬原爆が落とされた7月24日のことも絶対に忘れないようにしたいです。